

令和2年度 水産資源調査・評価推進委託事業のうち(国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業
(北太平洋鯨類資源調査) 報告書

本報告書は、一般財団法人日本鯨類研究所が水産庁長官より委託された水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業において8月から9月にかけて実施された鯨類資源調査について報告するものである。本調査は、北太平洋におけるミンクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ナガスクジラをはじめ、シロナガスクジラやセミクジラなどの希少種を含むヒゲクジラ類を中心とした鯨類の分布状況の把握、ならびにその資源量推定のための目視情報の収集を目的としている。以下に本研究所が用船した調査船第七開洋丸の調査結果概要について報告する。

記

1. 調査海域

調査海域は、日本の排他的経済水域及び公海上における北緯35～43度、東経140～150度の範囲とした(図1)。好天に恵まれ、予定より早く調査が進捗したこともあり、東経140～150度、北緯30～35度の範囲の一部においても調査を実施した(図1)。

2. 調査体制

水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて用船した以下の船舶により実施した。

第七開洋丸 (649トン、海洋エンジニアリング株式会社所有)

3. 調査員

記録担当: 磯田 辰也 ((一財)日本鯨類研究所)
高橋 萌 ((一財)日本鯨類研究所)

運行担当: 佐々木 安昭 (海洋エンジニアリング株式会社 第七開洋丸 船長)

4. 調査期間

第七開洋丸は2020年8月5日から9月18日にかけて目視調査を実施した。

日付	行動日程(45日間)
8月5日	八戸港出港
8月6日	往航目視調査開始
8月7日	調査海域到着・調査開始
9月11日	調査海域終了
9月18日	三崎港入港

5. 調査結果

5-1 目視調査における探索努力量

予め調査海域内に設定したジグザグ状のコース上を調査した。時期による鯨の回遊方向を考慮し、北側から南側へ調査を実施した。調査期間における探索努力量(往復航海を含む)は2,058.4 哩、調査海域における探索努力量は2,034.4 哩(計画距離:2,226.2 哩、カバー率:91.4%)であった(表 1)。

表 1. 各海域の探索努力量(哩)

	距離(哩)
調査海域(計画)	2,034.4
調査海域(努力量)	2,226.2
カバー率(%)	91.4

5-2 鯨類の発見群頭数

航海では往復航海を含め、合計 438 群 5,752 頭(イルカ類含む)の鯨類が発見され、そのうち、種が特定できたものが 18 種(ヒゲクジラ類 5 種、ハクジラ類 13 種)であった。ヒゲクジラ類は、ナガスクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ミンクジラ、ザトウクジラの 5 種が発見された(表 2)。

5-3 自然標識記録(写真撮影)

対象鯨のザトウクジラ 1 個体、シャチ 4 個体の自然標識撮影を実施した(表 3)。

5-4 バイオプシー標本の採集

対象鯨のナガスクジ 1 個体、イワシクジラ 1 個体、ザトウクジラ 1 個体からバイオプシーを採取した(表 3)。

5-5 衛星標識装着実験

対象種のナガスクジ 1 個体、イワシクジラ 1 個体に衛星標識を装着した(表 3)。

5-6 距離角度推定本実験

8 月 10 日に予行演習を実施し、8 月 26 日に本実験を実施した。本実験では 3 時間 55 分の間に、合計 112 回のトライアルを実施した。

6. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門が保管する。また、国際捕鯨委員会(IWC)科学委員会において、本計画がオーバーサイト調査として承認されており、主要電子データの提出が義務付けられていることから、天候記録、努力量記録、目視記録、距離角度推定実験記録の各電子データを同部門より、IWC 事務局へ提供予定である。本調査の詳細な結果は、2021 年に開催される IWC 科学委員会等において発表を予定している。

表 2. 調査海域内における種別発見群頭数

鯨種	群	頭
ミンククジラ	2	2
ニタリクジラ	141	176
イワシクジラ	2	2
ナガスクジラ	4	4
ザトウクジラ	1	1
マッコウクジラ	68	215
ツチクジラ	1	1
マダライルカ	13	555
スジイルカ	47	1,857
マイルカ	12	501
カマイルカ	10	452
ハナゴンドウ	25	201
ユメゴンドウ	1	6
マゴンドウ型コビレゴンドウ	2	25
タッパナガ型コビレゴンドウ	4	155
カズハゴンドウ	2	830
シャチ	1	4
リクゼン型イシイルカ	1	1
イシイルカ型イシイルカ	2	38
型不明イシイルカ	6	19
アカボウクジラ	1	1

表 3. 各種実験結果(数字は個体数を示す。)

鯨種	自然標識	バイオプシー	衛星標識
ナガスクジラ	0	1	1
イワシクジラ	0	1	1
ザトウクジラ	1	1	0
シャチ	4	0	0
合計	5	3	2

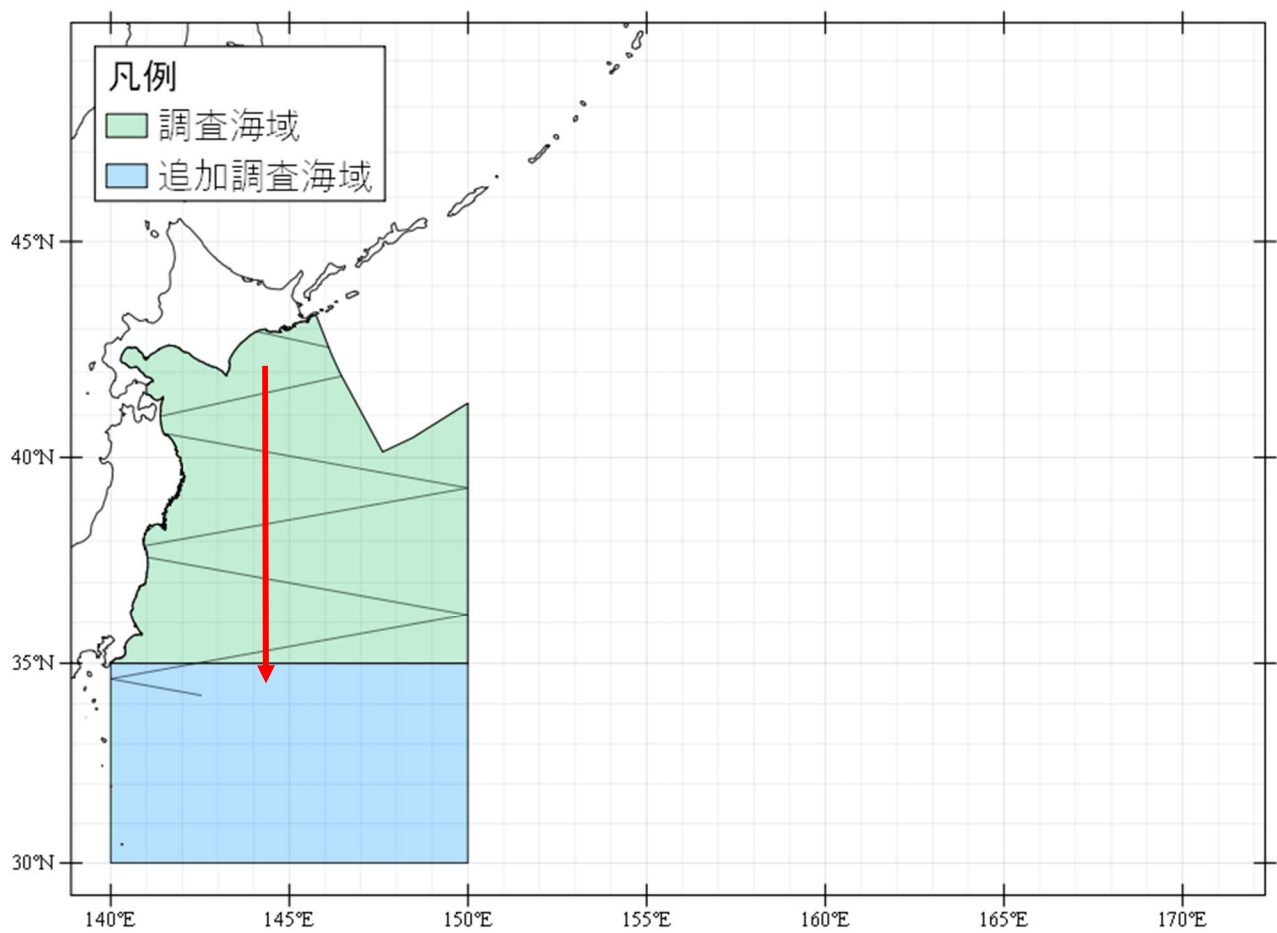


図 1. 令和 2 年度の調査海域。矢印は調査を行った方向を示す。予定より早く調査が進捗したこともあり、東経 140～150 度、北緯 30～35 度の範囲の一部においても調査を実施した。